地理歴史科「日本史探究」学習指導案

静岡県立〇〇高等学校

授業者 〇〇 〇〇

1 単元名

日本文化のあけぼの(A(1)黎明期の日本列島と歴史的環境・(2)歴史資料と原始・古代の展望)

2 生徒の実態(年組 在籍人)

(略)

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。【知識及び技能】
- ・自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。また、黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・黎明期の日本列島の変化に着目して時代を通観する問いを表現し、課題意識をもって考察しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。</p> <p>②原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>①自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。また、黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。</p> <p>②歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。</p>	<p>①黎明期の日本列島の変化に着目して時代を通観する問いを表現し、課題意識をもって考察しようとしている。</p>

4 指導と評価の計画<全5時間>

●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

次程	問いと学習活動	評価の観点			評価方法等
		知	思	態	
	【単元を貫く問い】 「人々はどのようにして生活レベルを向上させていったのだろうか？」				
第1次 (2時間)	☆自然環境の変化は、人々の生活をどう変えただろうか？ ・旧石器文化の成立 ・縄文文化の成立	●	●		●ワークシートの記述
第2次 (2時間)	☆大陸との関わりは、人々の生活をどう変えただろうか？ ・弥生文化の形成 ・東アジア世界との交流 ・時代を通観する問いをたてる	●		●	●ワークシートの記述
第3次 (1時間)	☆調査・研究の進展によって「歴史」は変わるのだろうか？ ・資料を活用して考察する		○	○	○ワークシートの記述
	定期考査	○	○		

5 本時の指導と評価の実際(本時は第3次の第1時)

(1) 日 時 (略)

(2) 本時の教材

ア 教材

教科書:『詳説日本史』(山川出版社)

副教材:(略)

ワークシート(別紙)

イ 教材観

本時は、前時まで学習した旧石器文化から弥生文化までのそれぞれの特徴や、東アジア諸国との関係について理解したことを踏まえ、諸資料から歴史がどのように叙述されているのか、多面的・多角的に考察していく。浜松市博物館の協力のもと、弥生時代の遺跡である伊場遺跡出土遺物や遺構に触れるとともに、発掘調査の成果をもとに描かれた集落の様子(『図説静岡県史』掲載)の図版を活用しながら、最新の研究成果を紹介することで、資料から歴史を読み解き、「調査・研究の進展によって歴史は変わるのか」について考えさせたい。

浜松市では1949年より13次にわたる発掘調査を行ってきた。今回最も注目する遺物である木製甲(よろい)は、第6次発掘調査(1973年)に前胴、第7次発掘調査(1974年)に後胴が出土している。木製であること、赤を基調とした彩色がされていること、鳥の翼のような装飾がされていること等を理由に、祭祀に使われたものではないかとされている。また、2024年に行われた蛍光エックス線分析では、赤の彩色にベンガラと水銀朱が使われていることがわかった。他の地域で出土した木製甲との類似性から、伊場遺跡と北九州地域との密接な関係があった可能性が出てきている。教科書で学習する内容だけでは、「よろい=戦闘用」となりがちであるが、そのイメージを覆すことが今回の授業の目的の一つでもある。また、調査技術の向上によって新たな発見や見方ができることにも気づかせたい。

授業は、グループワークで展開する。既習事項を踏まえながら、前述した諸資料や県立図書館所蔵資料を活用し、本時の学習課題である「伊場遺跡の人々の生活を表現」していく。

(3) 本時の目標・問い・評価規準を満たしている生徒のあらわれ・評価規準・評価方法

<p>【本時の目標】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察する。(思考力、判断力、表現力等)</p>	<p>【評価規準】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)</p>
<p>【本時の問い】 調査・研究の進展によって「歴史」は変わるのだろうか？</p>	<p>【評価規準を満たしている生徒のあらわれ】 周囲に濠を巡らせ、集落を守る工夫をしている。伊場遺跡はほかの遺跡と違って、特殊な役割を果たしている。</p>
<p>【評価方法】 スライド資料、ワークシートの記述</p>	

(4) 指導の実際

段階 (分)	生徒の学習活動 「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」等	指導上の留意点
導入 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの振り返り 弥生文化の特徴を確認する ・出土遺物、遺構に触れる 伊場遺跡…土器、銅鐸、木製甲、環濠 ・それぞれの遺物の用途を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で記入し、ペアワークで確認する。 ・学芸員が現地で参加する場合は、生徒が実物に触れる時間をつくる。 (Zoom参加の場合は、博物館の展示を見せる。)
展開 (25)	<p>【解決したい課題や問い】 問い「調査・研究の進展によって「歴史」は変わるのだろうか？」 課題「伊場遺跡の人々の生活を表現してみよう」</p> <p>【考えるための材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①既習事項 ②出土遺物・遺構 ③発掘調査報告等の伊場遺跡関連書籍 <ul style="list-style-type: none"> ・発表 グループで意見をまとめ、共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現した内容に対する証拠を示すよう指導する。 ・Googleスライド等で他のグループの考えを共有する。
まとめ (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ、感想の記入 他のグループの意見を踏まえて記入する ・学芸員からの補足、説明 ・次時に向けての説明 	

【課題に対する生徒の活動について(補足)】

- ・『図説静岡県史』掲載の伊場遺跡の集落の様子に、修正・補足をしていく。
- ・その際、「なぜそのように修正(補足)したのか」を説明できる「証拠」を示すよう指導する。
(文字資料の無い時代の歴史叙述は、出土した遺物や類似事例の有無などから判断して行われているため、その追体験を行うことで、歴史叙述がどのようになされているのかを理解させる。)
- ・『図説静岡県史』は約30年前に発行されているため、その間に調査・研究が進み、新たに発見された点や捉え方が変わった点を補足できると本時の問いは達成できる。